

太陽光パネル 骨材に再生

太陽光パネルのリサイクルに対応したよ
ねざわ工業の工場と同社の米沢悟社長



恵庭・よねざわ工業

【恵庭】コンクリート
ブロック製造販売のよね
ざわ工業(恵庭)が1日、

太陽光パネルのリサイク
ル事業に乗り出す。パネ
ルの多くを占めるガラス
を自社工場で破碎、選別
し、ブロックの骨材に再
生する全国でも珍しい取
り組み。住宅着工戸数の
減少など本業に逆風が吹
く中、パネルの再資源化
率は95%以上を目指し、
新たな収益の柱に育て
る。

2011年の東日本大
震災後、再生可能エネル
ギーの普及が進む中で、
太陽光パネルが大量設置
されてきた。耐用年数は
20〜30年で、国内の廃棄
量は40年代前半に年間最
大50万トに上る見通し。
道内でも処理需要の増加
が予想されている。

パネルの約6割を占め
るガラスの再生処理は手
間がかかり費用が高く、
業者も少ないため埋め立
て処分が主流だ。同社は
瓶ガラスを舗装ブロック

製品に再生する技術を持
ち、既存事業との親和性
が高いと判断した。

同社工場内に、事業者
などから回収したパネル
を解体して取り出したガ
ラスを破碎、選別する専
用機械を新設した。北洋
銀行の融資商品「サステ
ナブル経営支援ローン」
も活用して資金調達し、
設備導入などに約1億4
千万円を投じた。

年間で最大約4万5千
枚のパネルを処理し、ガ
ラス約300トを利用す
る計画。処理費用は1キ
ロ95円から。金属類は売却
し、リサイクルにつなげ
る。米沢悟社長(47)は「持
続可能な地域づくりへ、
地元で出た廃棄物を地元
で消費する『地産地消』
を進めたい」と話す。

同社は1952年創
業。恵庭市内に工場を構
え、主力のブロック製品
は花壇の土留めや玄関ま
での通路などに使われて
いる。

(加藤遙花)